



聖
陵



第12回 聖陵会クリスマス会

- 医療運送用ヘリ ホワイトバード 運航
- “力士”の方が来られました
- 清流復活運動
- “稻の会”の慰問がありました
- 第12回 クリスマス会が開催されました
- 大分県病院学会に参加して
- 大分NST研究会に参加して
- 新入職員紹介
- 日田漫歩 ㉙ 「エンマさま」

医療運送用ヘリホワイトバード運航 **WHITE BIRD**

医療法人財団池友会が導入している医療運送用ヘリコプター(ホワイトバード)が、平成20年11月より始まり、日田地域でも平成21年1月現在までに9件の搬送が行われました。

日田地域ではすでに大分県消防防災ヘリ、久留米大学病院ドクターへリが活用されていますが、池友会へリ(ホワイトバード)はドクターへリ・消防防災へリが扱うような重症患者をはじめ、従来、搬送対象としなかった軽中等症の患者搬送や、ドクターへリだけでは不足すると思われる、大規模災害時の患者搬送手段、医療物資運送手段として使用することが可能となりました。

このホワイトバードは池友会の救急告示病院(新小文字病院・和白病院・新水巻病院・新行橋病院)に搬送することを目的としておりますが、運送依頼は日田地域のいずれの病院からも可能です。

なお、民間企業の行う当ヘリの運送事業ですが、運送を依頼した医療機関及び行政機関、患者さんの運送費用負担は一切ありません。

ホワイトバードの運行により、津江地域などの山間部をはじめ日田地域の救急医療がより充実したものとなり、問題とされている救急車のたらい回し問題などが当地域で起こらないことを祈っています。

■聖陵会 岩里病院



～“力士”の方が来られました～

11月26日に片男波部屋の力士の皆さんがあつきました。本物の力士を生で見るのは初めてで、大きいだけでなくがっかりとしていて思いっきり押してもびくともしないなと思いました。実際に取り組みをさせてもらったら、あっけなく土俵の外に放り出されました。少ししか取り組みをして

ないのに、息切れてしまい、いつもテレビで見てる力士の方達の取り終わった後の辛さが少し分かりました。小学生の子どもたちも参加していて、元気いっぱいに力士にぶつかっていました。利用者の方々も声を出して応援されたり、椅子から腰をあげて立って応援したりと、いつもとはまた違った表情をされていて、みなさんとても生き生きとされていました。

■聖陵ストリーム





清流復活運動



私達の故郷日田は、昔から川の水量が豊かで清らかな事から水郷（すいごう）と濁さず水郷（すいきょう）と呼ばれ独自の歴史文化を築き上げてきました。しかし、川の汚れ、水量の少なさから本当に水郷（すいきょう）日田と呼べるのか？という思いから、清流復活運動を日田では行っています。

平成11年3月、柳又発電所と松原発電所の水利権が30年ぶりに更新されることから、大山川・三隈川の水量を増やしてもらうよう、大山町と日田市で全住民規模の水量増加運動を行いました。その結果大山川の水量は以前より増えたものの、まだ充分な量とは言えず、水量水質に不満や苦情が多いのが現状です。

今回、再び大山川への放流量を見直す時期が来たことで、水量増加運動は盛り上がりを見せています。昨年12月4日には、水郷ひた再生委員会の主催で日田市民文化会館「パトリア日田」において「水郷ひたの清流復活をめざして！」という市民大会が開催されました。

そこで、水郷日田の清流復活運動を行っている「水郷ひた再生委員会」の代表、浜田昌澄氏に話を聞いてきました。



水郷ひた再生委員会
代表 浜田 昌澄氏

水郷ひた再生委員会では前回行った、「**大山川、三隈川の水量増加運動**」から10年が経ち大山川の放流量を、見直す時期がきた為「**水郷ひたの清流復活を目指して！**」をスローガンとして活動しています。

川のアンケート調査・ポスターの掲示・署名活動・市民集会等を行い、大分県知事、国土交通大臣、独立行政法人水資源機構、九州電力株式会社へ大山川の放流量の見直しを求めて活動しています。

聖陵会にも水環境委員会があり、日田の水質調査等を行っています。一人で出来る事は少ないですが、アクリルタワシ・石鹼洗剤等を使用し、川の環境改善に努めています。

また、聖陵会の水環境委員会では、活動内容をまとめた冊子「**輪～地域とともに**」を作成し、岩里病院、花月クリニック、聖陵ストリームに置いていますので是非、ご覧下さい。

■水環境委員会

“稻の会”の慰問がありました



12月11日10時頃、ストリームタプロームにて『稻の会』の皆さんのが慰間に来られました。歌や踊りの披露があり、入所者の皆さん方も、歌に合わせてリズムをとったり、手を叩いたり楽しんでいる様子で、笑顔もたくさん見られました。

慰問が終わった後、入所者の方から「**楽しかった**」「**良かった**」などの声も聞かれ、いい慰問だったと思いました。

■聖陵ストリーム 佐藤洋介



第12回

クリスマス会が開催されました



今回のクリスマス会はテーマを「**出会い**～あなたに会えてよかったです～」とし、イエス・キリストの誕生を祝うこの記念日をきっかけに何気ない出会い、その時の大切さを改めて考え直す会に出来ればと思い、クリスマス委員一同取り組んでまいりました。

今年のツリーは出会いの一場面、その瞬間を収めたさまざまな写真で飾り付けをしました。この写真は聖陵会理事長岩里先生より提供して頂きました。聖陵会で行っている海外支援活動の際撮影されたものが多く、貴重な出会いをされたその瞬間が数多く収められていました。中には昔懐かしい写真もあったのではないかでしょうか？



また、今年のイベントとしまして、緑ヶ丘幼稚園による「矢島美容室」のダンス、託児所メーテルの子ども達による出し物、病院職員による胡弓演奏、ストリーム職員による劇を行い、利用者や家族の方など参加して頂いた皆様には楽しい時間を過ごして頂けたのではないかと思っております。この会を通じて、ほんのひと時でも自分の一番印象に残っている出会いなど思い浮かべ、改めて出会いの大切さに気づ



いて頂けたのであれば、委員長として嬉しく思います。

最後に、今回イベントにご協力して頂いた方々、またボランティアスタッフの方々、誠にありがとうございました。クリスマス会に携わって頂いた皆様のおかげで、大きな事故もなく無事に終えることが出来ました。ありがとうございました。



■第12回聖陵会クリスマス会実行委員長 井 上 勇 雄

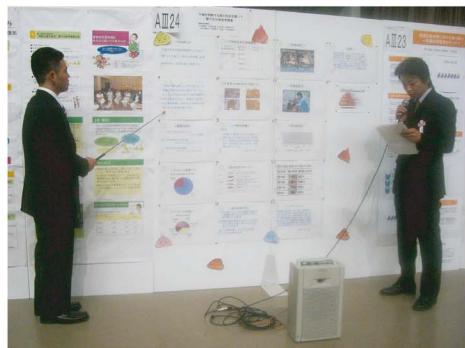
●大分県病院学会に参加して

11月24日、別府ビーコンプラザで行われた、第26回大分県病院学会で当院の看護部より2題の研究発表が行われました。1題は「下痢を判断する便の性状を調べて」というもの、もう1題は「尿漏れを防ぐオムツの当て方」です。

特に、2題目は看護助手さん達の研究発表で、学会を通じて看護助手の発表は当院だけだった様に思います。

研究発表をするにあたり、尿取りパット・外オムツの当て方の工夫、スタッフへのアンケート、勉強会の実施、DVDの作成など仕事の合間や終業後に時間を作つて努力していただきました。

発表を担当した看護助手の井上和美さんは、「手が震える程の緊張でしたが多くの方々が興味を示してくださいり、とても嬉しかったです。スタッフの皆さんに助けていただき、こんな素晴らしい発表ができました」と喜んでいました。



●大分NST研究会に参加して

12月6日パトリア日田にて第8回大分NST研究会が行われました。

「草の根NST。入院時JREスクリーニングが活用されにくい理由を34人のスタッフに聞く」 藤木文子
「重症呼吸疾患から回復した患者の嚥下リハには積極的に胃ろう造設を提案します」 瀬戸栄子

当院よりこの2演題発表しました。私自身研究会などの会場発表は、数年ぶりであり、とても緊張しました。他の病院の研究発表もとても興味深く、また驚きもありました。このような研究発表会に参加し様々な病院の、現在のNST活動について知ることができました。みなさんも機会があればいろんな研究に参加し学んでいただきたいとおもいます。興味のあるかた病院にお電話ください。お待ちしております。

■聖陵岩里病院 瀬戸栄子

NST(エヌエスティー)とはNutrition Support Team(栄養サポートチーム)の略のことです。

例えばお薬を患者さんに処方するときは、子供では当然体が小さいので薬の量も少なくしますし、大人でも体格によっては薬の量が違ってきます。更に、病気によっても当然薬の種類や量は違ってきます。実は栄養についても全く同じなのです。体のサイズや病状によって必要なエネルギーや栄養素の種類類が異なって来ます。同じ病気を持った人でも20歳の人と80歳の人では必要な栄養が異なりますし、その人の病状や活動度によっても当然違ってきます。

栄養管理を個々の症例や各疾患治療に応じて適切に実施することを「栄養サポート」といいます。この栄養サポートを、職種の壁を超えて実践する集団(チーム)がNST(Nutrition Support Team:栄養サポートチーム)です。

NSTは1970年にアメリカのシカゴで誕生しました。代謝・栄養学の専門家といわれる医師、薬剤師、栄養士らがシカゴに集結して、患者サイドに立った専門的な栄養管理チームの必要性を唱えたのが始まりです。欧米では既に多くの病院においてNSTが活躍していますが、日本でもこの数年で栄養に対する関心が急速に高まり、現在では全国で600以上の病院にNSTが設置されています。

新入職員紹介

①氏名
②誕生日
③血液型
④所属
⑤趣味
⑥今後の抱負

①倉 富由紀子
②1月13日
③A型
④3階介護(パート)
⑤スノードボード・音楽鑑賞
⑥日田に来てまだ一年程なので、仕事だけでなく、その他さまざまなことも皆さんから教わりたいと思います。

聖陵ストリーム



- ①林 ゆかり
- ②4月25日
- ③B型
- ④2階介護
- ⑤映画鑑賞・読書
- ⑥色々とお世話になるかと思いますが、どうぞよろしくお願いします。



*以上2名の新人さんです。
これからも宜しくお願いします。



日田漫歩⁽²⁸⁾

「エンマさま」

樋原義則



昨年は、イノシシ（肉）との縁がことに深かった。大山町の梅干し農家の黒川正輝（金右衛門）さん、九重町議の藤原三治さん、日田市の木インストラクターの財津忠幸さんから、極上品をしばしば頂いた。もちろん、ボタン鍋。友人との宴や大庭憲幸藤蔭高校長の慰労会など、その美味とうまい酒で盛り上がった。



一方で、日田市は畑の農作物や木々の新芽、樹皮を荒らす駆除イノシシ、シカを活用し、ハム、ベーコンなどの特産品、名物料理を開発するプロジェクトチームを立ち上げた。試食会は、スレオニン（新陳代謝効果）、アスペラギン酸（疲労回復効果）を多く含むシシ肉の評判が抜群だった。

被害は全国的。鹿児島の友人がやってきて言う。「桜島でもイノシシが猛繁殖している。シシ肉を活用した料理を創作中だ」。実は、

1月7日、桜島島民や筆者が理事をしているNPO法人仲間が中心になって、パロディ国家「マグマ共和国」が建国された。

「自由で明るく豊かな国づくりのため『健康と食、文化、観光、環境』を追求する」と、独立宣言書にうたった。大統領は心理学者で市民運動家、大統領府長官は鹿児島大教授、中央情報局総裁は企業コンサルタント。30ぐらいの省庁を創設し、広報省（ほらふき大臣）、産業省（あきない大臣）、観光省（あんない大臣）、行政省（すぐやる大臣）といった具合。きめ細かな活性化を図る。「お前（筆者）は何がいいか」と聞かれたので、「法務大臣（極楽、地獄行きや物事の是非を判断し、コンプライアンス担当の閻魔大王）でどうか」と答えた。

今年は不況がより深刻化しそう。スローモードな丑（うし）ではなく、スピーディーな意思決定でイノシシのごとく前進したいものだ。

経歴：毎日新聞記者。鹿児島支局長、経済部長、編集委員を経て2000年4月、日田赴任。



医療法人 聖陵会

救急指定

聖陵岩里病院

介護老人保健施設

聖陵ストリーム

居宅介護サービスセンター

訪問介護サービスセンター

こども発達・支援センター 銀河

聖陵花月クリニック

アンコール小児病院（カンボジア）

■ホームページ <http://www.seiryou.or.jp/>
■E-mail seiryou@seiryou.or.jp

〒877-0052 大分県日田市銭渕町16-18 TEL 0973-22-1600
FAX 0973-22-1603

〒877-0075 大分県日田市中釣町485-3 TEL 0973-26-3111
FAX 0973-26-3114

TEL 0973-27-6687 FAX 0973-23-6166

TEL 0973-27-5345 FAX 0973-26-3114

TEL 0973-26-3111 FAX 0973-26-3114

〒877-1232 大分県日田市大字三和931-6 TEL 0973-27-5050
FAX 0973-22-1080